

令和6年度第3回習志野市産業振興審議会 会議録

1 開催日時 令和7年1月27日(月)午後7時00分～午後8時30分

2 開催場所 習志野市庁舎 GF(グラウンドフロア) 会議室 A・B

3 出席者

【会 長】	習志野商工会議所	竹谷 嘉夫 氏
【副会長】	習志野市商店会連合会	司茂 和彦 氏
【委 員】	千葉みらい農業協同組合	櫻井 孝則 氏
	連合千葉総武地域協議会	上田 健治 氏
	会社役員	高橋 博雅 氏
	習志野市まちづくり観光推進協議会	金子 正 氏
	千葉県中小企業診断士協会	川村 浩司 氏
	日本大学生産工学部	山岸 輝樹 氏
	東邦大学理学部	佐藤 文明 氏
	千葉工業大学情報科学部	熊本 忠彦 氏
	公募委員	今井 克一 氏
	公募委員	不動 早苗 氏
	学識経験者	伊藤 稔 氏

【オブザーバー】

習志野商工会議所	柴崎 光治 氏
----------	---------

【事務局】	協働経済部	部長	根本 勇一
		次長	小倉 一美
	協働経済部(産業振興課)	課長	大竹 博和
		係長	小野瀬 悠一
		係長	石橋 正崇
		係長	近藤 孝洋
		主任主事	山口 裕登
		主事	石井 祐二郎
		主事補	大森 栞

4 議 題

- (1)会議の公開(非公開)
- (2)会議録の作成等
- (3)会議録署名委員の指名
- (4)協議
 - (1)次期産業振興計画の素案のたたき台(第4章以降)
- (5)その他(事務連絡等)

5 議事内容

- (1)会議の公開(非公開)について

【竹谷会長】

ただいまから、令和6年度第3回習志野市産業振興審議会の会議を開会する。

本会議は規定により、過半数である委員8名以上の出席が成立要件となっているが、ただいまの出席委員は13名である。よって本会議は成立している。

はじめに、会議の公開についてお諮りする。

本日の会議は、「習志野市審議会等の設置及び運営等に関する指針」により、原則公開となっている。ただし、内容により、公開・非公開の判断が必要となった際は、その都度お諮りすることとするが、よろしいか。

《 異議なし 》

それでは、そのようにさせていただく。

なお、本日の内容に非公開事項になると思われる案件はない。また、傍聴者については、定員に達するまでの間は、入口でお配りした注意事項を守るようお願いした上で、随時傍聴希望者の入室があるので、あらかじめご承知おき願う。非公開となった場合は、指示に従っていただくこととする。本日は今のところ傍聴希望者はいない。

- (2)会議録の作成等について

【竹谷会長】

次に、会議録の作成等についてお諮りする。

会議録については要点筆記とし、会議名、開催日時、開催場所、出席者氏名、審議事項、会議内容、発言委員名及び所管課名を記載した上で、市ホームページ及び市役所グラウンドフロアの情報公開コーナーにおいて、公開したいと考えるが、これにご異議ないか。

《 異議なし 》

ご異議ないようなので、そのように取り扱うことに決定する。

(3)会議録署名委員の指名について

【竹谷会長】

次に、会議録署名委員の指名についてお諮りする。

会議録の作成に当たりまして、正確性、公正を期するため、会議録署名委員を私から指名させていただきたいが、ご異議ないか。

《 異議なし 》

異議なしと認める。それでは、本日出席している名簿順に、川村委員、山岸委員を指名させていただく。

(4)協議について

【竹谷会長】

それでは、協議事項に移らせていただく。

協議事項(1)、次期産業振興計画の素案のたたき台(第4章以降)について、事務局から説明願う。

【事務局／大竹課長】

前回の会議では、次期産業振興計画の策定に向け、次期産業振興計画の素案のたたき台、第1章から第3章までについてご協議いただいた。

本日は、次期産業振興計画の素案のたたき台の第4章以降についてご協議いただいた上で、素案として作成していきたいと考えている。

はじめに配布資料を確認させていただく。まず、習志野市産業振興計画(素案のたたき台)19ページ以降のもの。続いて、資料①産業振興計画の基本方針及び指標の新旧比較(案)、資料②次期産業振興計画の基本方針及び指標(案)、資料③産業振興計画の令和5年度実績評価について。また、以前の会議でお配りした習志野市産業振興計画、以上の5点となる。

それでは説明を始めさせていただく。

最初に、産業振興計画の令和5年度実績評価をご報告させていただく。資料③産業振興計画の令和5年度実績評価をご覧いただきたい。

令和6年度第1回審議会で、令和4年度の実績を中間実績評価としてお示しをさせていただ

いた。

令和4年度までは、新型コロナウイルス感染症の影響が非常に大きく、産業振興計画の各指標の評価が低い結果となっていた。

令和5年度実績については、新型コロナウイルス感染症の影響から徐々に回復が見られるものも散見されるが、総じて令和4年度実績評価から概ね変わっていないものがほとんどであるため、令和4年度実績評価と比較して、変わったものを中心に説明させていただく。

なお、素案に過去の実績として反映するのは、計画策定スケジュールの都合上、令和5年度実績で最後となる。

資料③の1ページをご覧いただきたい。

第1節 経営の安定化支援について。

成果指標②利子補給金の交付事業者数の評価については、CからDとなっている。

利子補給金の交付事業者数は、市制度融資の利用者減少から、利子補給金についても減少する目標を立てていた。令和4年度の638事業者に対して、令和5年度は759事業者であり、評価としてはDとなっているものの、新型コロナウイルス感染症やエネルギー価格、物価高騰等の影響による融資件数が増加したことによるものが要因であり、社会情勢の変化に直面する市内中小企業への市制度融資を活用した支援が図られたものと考えている。

続いて2ページ、主な取り組み②相談体制の充実について。

中間指標②技術相談件数は、令和4年度の6件に対して令和5年度は5件となり、評価はDとなったが、概ね堅調に推移しているものとする。

続いて3ページ、第2節 商工業の振興について。

成果指標②市内法人数の評価はBからSとなっている。

市内法人数は、令和4年度の3,394法人から令和5年度は3,515法人に増加している。コロナ禍からの回復が徐々に見られ、目標値の3,500法人を達成している状況となっている。

続いて4ページ、主な取り組み③付加価値の高いものづくりの支援について。

中間指標①「習志野グローバルものづくりガイド」アクセス数は、令和4年度の37,406件から、令和5年度は29,429件に減少となったことから、評価はBからCとなった。

続いて、中間指標③技術相談件数については、先ほど説明した通りである。

中間指標④新たな設備の導入を目的とした資金の融資件数は、令和4年度の15件から令和5年度は26件に増加し、評価はCからAとなっている。中小企業の販路拡大や、新たな設備投資を実施しやすい環境の構築に、本市制度融資とそれに伴う利子補給といった支援が繋がっているものと考えている。

続いて5ページ、第3節 都市農業の振興について。

成果指標①認定農業者数の評価はSからAになっている。

認定農業者数は、令和4年度の25人から令和5年度は21人となっている。

市内の農業者は減少傾向にあり、認定農業者についても、これまで本市農業を担ってきた農業者が高齢等を理由に更新を行わないケースが出てきている。

このような中でも、若手農業者の認定や後継者を含めた親子共同で認定するなど、目標値並みの人数を確保している。

続いて7ページ、第4節 観光の振興について。

成果指標②市内宿泊客数については、千葉県が実施していた宿泊客数調査が令和4年度をもって終了し、令和5年度以降は市町村別の調査が行なわれていないことから、今回は評価を実施していない。また、現状値に対する評価の理由の最下部について、誤りがあったため次のおり訂正させていただく。令和5年度の千葉県全体の宿泊客数が、3,722,000人となっているが、正しくは27,774,000人である。

主な取り組み①観光力の強化について。

中間指標②ドラマ・映画等の撮影誘致回数は、令和4年度の42回から令和5年度は22回となっている。撮影回数自体は減少しているが、令和5年度は、実籾にある旧鶴田家住宅が「日立 世界・ふしぎ発見！」に取り上げられ、朝の情報番組「ZIP！」では習志野高校吹奏楽部と東京スカパラダイスオーケストラがコラボしたライブが放送されるなどの実績がある。

続いて主な取り組み、②地域資源の活用について。

習志野ソーセージを販売・提供する行事数の評価はBからSとなっている。

行事数は令和4年度の3件から令和5年度は6件に増加している。市民まつり習志野きらっと、習志野ドイツフェア、京田辺市民まつりたなフェス、千葉県産フェア、オービックスシーガルズホームゲーム2試合で販売を行っている。

続いて8ページ、主な取り組み③広域連携・交流について。

中間指標①都市間交流市村との相互参加行事数は、令和4年度の1回から令和5年度は3回となっており、評価は、CからAとなっている。アフターコロナとなり、市民まつり習志野きらっと、富士吉田市の火祭り、京田辺市民まつりでの交流を図ったところである。

続いて9ページ、第5節 創業しやすい環境の整備について。

主な取り組み①創業希望者への支援、中間指標①創業塾等の実施回数の評価は、BからSとなった。

中間指標①創業塾等の実施回数（累計値）については、令和4年度までが8回だったが、令和5年度までの実績は11回となっている。創業塾事業を1回、創業スクール事業を2回実施しており、目標値を概ね達成している状況である。

中間指標③創業支援を目的とした資金の融資件数の評価は、CからBとなっている。

創業支援資金の件数（累計値）は、令和4年度までが8件となっていたが、令和5年度までの実績は12件となっている。

続いて10ページ、主な取り組み③産学民官連携の推進、中間指標②技術相談件数については、先程説明したとおりである。

中間指標③ビジネスマッチングイベントの出展企業数の評価は、DからSとなっている。新型コロナウイルス感染症の影響により、令和4年度までは、大規模な展示会の開催を控えていたため0件だったが、令和5年度は3件の参加があった。

続いて11ページ、第6節 働きやすい環境づくりについて。

主な取り組み①安心して働ける環境づくりの、中間指標①中小企業退職金共済に加入している市内事業所数の評価は、DからCとなっている。

中小企業退職金共済に加入している市内事業所数は、令和4年度の169件から令和5年度は177件に増加している。広報習志野を活用した周知啓発に取り組み、若干の増加となっている。

続いて13ページ、第7節 就労・雇用機会の拡大について。

主な取り組み①求職者への支援、中間指標①就労支援イベントの開催回数の評価は、CからBとなっている。

就労支援イベントの開催回数(累計値)は、令和4年度までの23回から、令和5年度までの36回に増加している。令和5年度は、市内の労働者や就職希望者、就職活動中の学生及び若年求職者を対象に、再就職支援セミナー、労働講演会等を計13回開催した。

全体として、令和5年度の実績については、新型コロナウイルス感染症の影響から徐々に回復が見られるものもあるが、総じて令和4年度の実績評価から変わっていない部分がある状況である。

続いて、資料①産業振興計画の基本方針及び指標の新旧比較(案)、資料②次期産業振興計画の基本方針及び指標(案)の内容に関してご説明させていただく。

まず、資料①については、前回、産業振興計画の基本方針の新旧比較としてお示した資料に、次期計画での状態指標を追記したものとなる。

表の見方は、左半分が現行の産業振興計画、右半分が次期産業振興計画(案)となっている。右半分に記載した次期産業振興計画(案)のうち、一番左の列から、番号、次期基本方針(案)、次期計画の成果指標(案)、次期計画の主な取り組み(案)までの各列については、前回お示したのとなっており、一番右の列、次期計画での状態指標(案)が、今回新しくお示しする箇所となっている。

状態指標とは次期計画の主な取り組み(案)の現状をモニタリングするための指標である。状態指標の数値を改善していくことによって成果指標が改善され、結果として各基本方針が達成されていくものと考えている。

資料①の右半分を見やすく拡大したものが、資料②である。

本日の説明は、資料②及び産業振興計画素案のたたき台(19ページ以降)を使用して説明させていただく。

それでは、資料②及び産業振興計画素案のたたき台 19 ページをご覧ください。

第1節 安定した経営環境の整備については、成果指標を市内事業所数、商店会の会員数、利子補給金交付申請率としており、これらを改善していくための主な取り組みとして、①地域経済対策の推進、②中小企業に寄り添った融資制度の充実としている。

①地域経済対策の推進では、将来にわたって地域に根差した事業展開ができるよう、習志野商工会議所等と連携・協力した取り組みを推進していく。

また、中小企業にとって有益な情報の発信や事業相談、地域活動など、習志野商工会議所が実施する中小企業対策や、商工振興事業の支援に取り組む。取り組みの進捗を図る状態指標は、地域経済対策事業による市内事業者への発注件数とした。

②中小企業に寄り添った融資制度の充実については、経営の安定化を図るため、金融機関や千葉県信用保証協会、習志野商工会議所等と連携・協力して、習志野市中小企業資金融資制度や利子補給制度など、中小企業に寄り添った支援を行う。

また、様々な機関・団体が行う支援や制度について周知を行い、資金融資制度並びに利子補給制度の利用促進を図る。状態指標は、融資件数及び融資金額としている。

続いて、資料②及び素案のたたき台 20 ページをご覧ください。

第2節 商工業の振興については、成果指標を①市内事業所数、②市内法人数としており、これらを改善していくための主な取り組みとして、①持続可能で賑わいのある商店街づくりへの支援、②特色あるものづくりの支援としている。

①持続可能で賑わいのある商店街づくりへの支援は、行政、市内事業者及び習志野市商店会連合会等が一体となり、各商店会の会員増加や自主財源の確保を促す。

また、街路灯の維持管理・整備や事業承継などの課題に取り組み、持続可能な商店街づくりを推進していく。

また、キャッシュレス決済、デジタル化、DXへの取り組みなど、時代に即した支援策について、事業者のニーズを把握し、地域消費を促進して賑わいの創出に取り組む。状態指標については、地域消費促進や商店街街路灯の維持管理への支援実施回数及び事業承継に関する相談等の実施回数とした。

次に、②特色あるものづくりの支援について、企業紹介及び販路拡大を目的としたウェブサイト「習志野グローバルものづくりガイド」や、展示会への出展等、事業者が相談できる機会・体制を構築することにより、ものづくり人材の育成・定着を図るための支援を行う。

また、従業員のスキルアップやブランディング等による競合との差別化を促進するとともに、産学民間連携による新技術・新製品の開発を支援するなど、特色あるものづくりができる環境を整備する。

さらに、先端設備等の導入など、設備投資を円滑に行うために、市制度融資を活用した下支えに取り組む。状態指標は、ものづくり人材の育成・定着に向けた事業及び相談の実施回数、設備投資を目的とした融資件数及び融資金額としている。

続いて、資料②及び素案のたたき台 21 ページをご覧ください。

第 3 節 都市農業の振興について、成果指標を①新規就農者数、②農地の集積率としており、これらを改善していくための取り組みとして、①多様な担い手の確保・育成、②持続的な農業経営の支援、③市民が農業に親しむ機会の創出としている。

①多様な担い手の確保育成については、農地中間管理事業を周知・活用することで、多様な農業経営者が農地を活用できるよう、関係機関と協力しながら制度の推進に取り組む。状態指標は中間管理事業（農地貸借）の件数としている。

次に、②持続的な農業経営の支援について、農業祭や商業施設等、各種イベントにおける地元農産物の供給を通じて、生産者である農業者と消費者である地域住民が、共に豊かな市民生活を享受できるよう取り組む。

また、習志野市産の農作物や農産物加工品のブランド化を促進し、農業経営の安定化に取り組む。状態指標は、農産物直売イベントの実施回数と農産物・農産物加工品の出荷資材数とした。

続いて、③市民が農業に親しむ機会の創出について、市民が農業に親しむ機会として、市営市民農園を運営するとともに、民営市民農園の開設支援の推進に取り組む。状態指標は、市営市民農園の利用率としている。

続いて、資料②及び素案のたたき台 22 ページをご覧ください。

第 4 節 観光の振興について、成果指標を①イベント実施箇所数、②地域資源の掘り起こし件数としており、これらを改善していくための主な取り組みとして、①観光プロモーションの強化、②地域資源の活用による地域への愛着醸成、③広域での連携・発信としている。

①観光プロモーションの強化については、歴史や文化など本市ならではの魅力を、ぶらっと習志野観光ガイドブック等の観光振興ツールやSNS等の活用により県内外へ情報発信し、発見や体験を通しての市内消費を促進するため、地域密着型の観光推進を図る。

また、ドラマ・映画等映像作品のロケ誘致を積極的に行い、いわゆる聖地巡礼の観光誘客を図る。

さらに、市民まつりをはじめとした市内イベントの情報発信や、市民と観光客が一緒に楽しむことができる体験型イベントを実施するなどの活性化に取り組む。状態指標は、観光ガイドブック等のまち巡りコースの掲載数、ドラマ・映画等の撮影実施回数、インバウンドを含む観光客と市民の交流によるイベント実施回数としている。

次に、②地域資源の活用による地域への愛着醸成について、習志野市の歴史や文化、産物をモチーフに開発された「習志野市ふるさと産品」や「習志野ソーセージ」の普及を図るとともに、これらを「ならしのブランド」として活用し、イベントの実施や情報発信による本市への観光誘客を促進する。

また、ご当地キャラクター「ナラシド ♪」と「ソラシノ（16 分音符）」のイベント出演や、キャラクターグッズを充実させるとともに、市内小中高生のスポーツ・音楽関係の部活動が参加するイベントを市全体で増やしていくことで、市民のシビックプライドの醸成に取り組む。状態指標は、習志野ソーセージやふるさと産品を活用したイベント実施回数、「ナラシド ♪」「ソラシノ（16 分音符）」のグッズ数、市内小中高生のスポーツ・音楽関係の部活動が参加するイベント数とした。

続いて、③広域での連携・発信について、本市と交流の深い富士吉田市（山梨県）、南房総市（千葉県）、京田辺市（京都府）、上野村（群馬県）との都市間交流事業や、ちばプロモーション協議会との連携、ふるさと納税返礼品における習志野市ふるさと産品の拡大など、関係人口の増加による地域活性化と広域的な観光振興に取り組む。状態指標は都市間交流市村との相互参加行事数、ふるさと納税の返礼品におけるふるさと産品の件数を掲げている。

続いて、資料②及び素案のたたき台の23ページをご覧ください。

第5節 創業しやすい環境の整備について、成果指標を①設立法人数としており、これを改善していくための主な取り組みとして、①産学官の連携と創業支援の体制づくり、②創業・起業希望者への支援、③創業・起業を目的とした資金調達の支援としている。

①産学官の連携と創業支援の体制づくりについては、習志野商工会議所をはじめ、金融機関、千葉県信用保証協会といった関係機関や、市内の小・中学校、高等学校、大学などと連携し、創業に必要な知識や心構えを学ぶ機会を提供し、創業がしやすくなる体制づくりに取り組む。

状態指標については、創業支援を目的とした産学官連携によるイベント実施回数としている。

次に、②創業・起業希望者への支援については、市内の小・中学校、高等学校、大学と連携し、創業に興味・関心の無い人や児童・生徒・学生などの若年層を対象としたセミナーや講演会、授業を開催することで、多くの人が選択肢の一つとして、「創業」を持つことができるような環境をつくり、創業機運の醸成に取り組む。状態指標は、創業塾等の実施回数及び受講者数、学生等を対象とした創業機運醸成事業の実施回数及び受講者数とした。

続いて、③創業・起業を目的とした資金調達の支援については、市内企業による新たな製品・技術の開発、あるいは新たな分野への進出に向けた取り組みを支援するため、市制度融資を活用するとともに産学民官の連携を強化・推進していく。

また、市内企業の優れた技術や製品について情報を発信するとともに、マッチングによる新たな市場や取引関係の創出支援に取り組む。状態指標は、創業・起業を目的とした資金の融資件数及び融資金額を掲げている。

続いて、資料②及び素案のたたき台24ページをご覧ください。

第6節 働きやすい環境の整備について、成果指標を①中小企業退職金共済制度 新規登録事業所数、②習志野商工会議所従業員表彰式 表彰者数としており、これらを改善していくための主な取り組みとして、①働きやすい環境づくりへの支援、②求職者への支援、③人材の確保としている。

①働きやすい環境づくりへの支援については、独自に退職金制度を整備することが難しい中小企業の実情を考慮し、国の制度である中小企業退職金共済制度への加入を促進し、従業員の福祉向上と雇用の安定並びに中小企業の振興に取り組む。状態指標については、中小企業退職金共済に加入している市内事業所数及び従業員数とした。

次に、②求職者への支援については、求職者への就労支援として、県、近隣自治体並びにジョブサポートセンター等の関係機関と連携・協力し、就労支援セミナー等の開催や労働に関する知識の普及・啓発等の情報提供を行うとともに、国と連携し「ふるさとハローワークならしの」の運営

を行う。

また、厚生労働省と船橋市が委託し、働くことに踏み出せなかったり、悩みを抱えたりしている若年無業者の就職支援を行う「ふなばし地域若者サポートステーション」事業に参画し、合同企業説明会や個別相談会などの支援に取り組む。状態指標については、千葉県ジョブサポートセンターとの連携による就労支援セミナーの実施回数及び参加者数、ふるさとハローワークならしの利用者数とした。

続いて、③人材の確保については、習志野商工会議所との共催により、会員事業所で永年活躍されている従業員及び社業の発展に貢献されている従業員の功労をたたえ、勤労意欲の高揚を図ることを目的に、「従業員表彰式」を行い、優れた取り組みの評価を行う。

また、本市の中心的存在である中小企業事業者の人手不足の解消を図るとともに、障がい者の雇用機会の拡大を図り、就労等を通じた社会参加の促進に取り組む。状態指標については、企業による面接会や説明会などのマッチングイベントの開催回数、障がい者地域共生協議会雇用促進部会の開催回数としている。

事務局からの報告及び説明は以上である。

【竹谷会長】

それでは、事務局から説明があったことについて、皆様からのご意見・ご質問を伺う。

なお、ご質問等については随時、事務局からお答えいただきたい。

また、本日は習志野商工会議所からもオブザーバーとして出席しているので、ご質問・ご意見をいただければと思う。

【今井委員】

第5節の創業しやすい環境の整備についての主な取り組みの3つは、それぞれ繋がりを持っていて相乗効果も期待できる。この3つを一体のものとして、全体を着実に推進することが重要と考える。

また、成果指標①設立法人数について、令和5年度までは復調に至っていないが、今後この3つの取り組みを通じて地域ポテンシャルを出しつつ、創業をサポートする体制を着実に作り上げていくことで、設立法人数も創業のまちと言えるように伸びていくと確信している。

市の創業支援等事業計画を拝見したところ、創業支援者数を目標として掲げており、創業に向けたある程度具体的な相談に対して、市が実際に支援を行っている方の数を指すのではないかとと思うが、創業に至る一歩手前の予備軍とも言うべき層がどの程度あるのか把握するという意味で、第5節の状態指標として創業支援者数を指標にしても良いのではないかと。

【事務局／大竹課長】

習志野商工会議所に創業塾を毎年委託しており、例年30数名にご応募いただいている状況のため、創業塾の参加者数で捉えていきたいと考える。

ただ、もう少し間口を広げるためにセミナー等の参加者数も計っていき、創業塾に繋がたいと考

える。

【金子委員】

第4節の観光の振興について、まちづくりの先に観光を見据えてという冒頭の書き出しが大変素晴らしい。観光が目的ではなく、あくまでもまちづくりが目的で、そのための観光という位置付けは、大変良いと考える。

ちょうど今の時期は中国から観光で多くの方が旅行に訪れているが、習志野市にはほとんど来ていないように感じる。それは、一つのまとまった情報発信ができていないからで、個々で情報発信をしてもなかなか届いていないのではないかと考える。

そのような課題がある中で、「ぶらっと習志野観光ガイドブック」の基本的な見直しを行い、今後は世界へ情報発信ができるような内容にして、世界から見た習志野の良さを逆輸入する形も良いのではないかと考える。インバウンドとの関係の中で新しい取り組みが必要と感じている。

【事務局／大竹課長】

基本的には「ぶらっと習志野観光ガイドブック」が、本市の観光情報を一つにまとめたものとなっている。現在、紙媒体のものが中心となっているが、ホームページ上からデータで閲覧もできることを周知していく。

また、ガイドブックの作り込みについても今後検証した中で、新たなガイドブックの作成を検討していきたいと思う。

【金子委員】

文教や文化、スポーツ等を連携させ、横の繋がりを持った組織が必要と思う。文教・文化・スポーツ等の観光を集約して情報交流ができるような組織・ネットワークが必要で、個々が単体で動いても観光振興は難しいことから、そういった組織を行政がリーダーシップをとりながら作ってほしい。

【伊藤(稔)委員】

習志野市には、大学がたくさんあるという特徴があるので、産学連携の推進としてもっと大学を活用し、ワーキンググループを作る等大学生が直接参加するような仕掛けを作っていく必要性を感じている。

また、先程金子委員からお話のあったインバウンドの招致や、食べ歩きなど若者を活かした商店街活性化、創業といった部分にも大学生を活用する仕組みがあれば良いと感じる。

農業について、市民農園の利用率が指標になっているが、令和5年度実績値では98%とほぼ満員状態である。習志野市は都市型農業であり、市民の人口が多く、今後は農業後継者不足により耕作放棄地が出ることが予想される中で、市営市民農園のさらなる拡大、あるいは民営市民農園の拡大支援策を考えて欲しい。自宅近くに市民農園があるが、高齢者を中心によく利用されているように思うので、そういった機会創出を市で推進してほしい。

商店街の活性化については、全国的に言われているところだが、習志野市内の商店会はいくつあるのか。また、例えば京成津田沼駅前から海側へ向かう通りは、いわゆる「シャッター通り」のよ

うな状況である一方で、京成大久保駅周辺は学生を中心に多くの利用者がいるため、空き店舗は目立たないように感じるが、市内の商店街はどのような現状なのか教えていただきたい。

【事務局／大竹課長】

まず、大学生を活用した施策としては、産学官連携プラットフォーム委託事業を習志野商工会議所に委託しており、学生と事業所を繋げる形で進めているところである。

ただ、掘り起こしをしなければならない部分もあるため、引き続き事業を行なう中で見直しを図っていきたいと考えている。

また、市民農園については、現状約 100%の利用率となっている。現在は、農家に対して、民営市民農園を推奨する形で考えている。

しかし、民営市民農園の開設・拡大に踏み切れない農家も多い中で、市が借り上げということも難しい状況となっており、現行の市民農園の規模では、例年落選している方もいる状況である。

農業を身近に感じるという点においては、非常に有効な施策と考えているため、改めて検討を進めたい。

続いて、市内の商店会数については、13 の商店会がある。

これまで商店だったところが宅地等になっている状況は、京成津田沼駅前の通りでクローズアップされているように感じる。また市内 13 商店街においても、総じて宅地化が徐々にされてきている状況は把握している。

【上田委員】

素案のたたき台 24 ページの、主な取り組み③人材の確保について。

人材の確保はするが、確保した人材をどのようにして定着させていくのかが、今後の課題であるとする。人材を確保しても定着するのが難しいというのが現状の課題である。

この課題をどうすべきか、農業で言えば、素案のたたき台 21 ページ、主な取り組み②持続的な農業経営の支援ということで、「習志野市産農作物や農産物加工品のブランド化を促進し、農業経営の安定化を図ります。」となっているが、ブランド化した上で価格転嫁を行うことで安定した経営に繋がると考える。大企業は、この物価高騰でかなり価格転嫁が進んできたと聞いているが、中小企業や農業等の第 1 次産業に関しては、なかなか価格転嫁が進んでいない状況で、どのようにして価格転嫁を進めていくのかを、今後は市としても考えていかなければならないと思う。

入口の部分だけで、融資の体制を整えて企業の安定化だけでは、その先が詰まってしまうものが多い。習志野市として様々なものをブランド化し、全てを価格転嫁していくということが、今後の課題だと思う。

【事務局／大竹課長】

いただいたご意見について、素案の中でどのように反映できるか検討させていただく。

【高橋委員】

第 5 節の創業しやすい環境の整備について。

創業を目的とした産学連携によるイベントや創業塾が指標に挙げられているが、実際に事業を始めたいと思っている方は、どう始めていいかわからない部分もたくさんあると思う。

私自身もこの創業塾を受講したが、すぐに創業には至らず、創業塾で仕事や事業の始め方を学んで、機が熟して10年程経過した後に創業している。

どのように事業を始めたらよいかかわからない方に対して、専門的な知識を持っている商工会議所と市が連携して創業支援を行っているのは、非常にテイクオフしやすい環境だと思うので、さらに力を入れていただきたい。

創業に必要なノウハウを、かなりきめ細かく体系的に教えてもらえる内容になっているので、広報活動にも力を入れて、事業周知をさらに積極的にやっていくべきだと思う。

【事務局／大竹課長】

創業塾の周知は、市及び商工会議所の広報誌、ホームページで行っている。

他の手法では、市公式 LINE での配信等、SNSの活用が考えられるが、さらなる周知の手法を検討していく。

【佐藤委員】

創業支援について、多くの学生にとっては就職活動がメインで、創業活動の発想はなかなか無いのが現状である。就職だけでなく、創業という選択肢もあることを、学生に認識させてあげる必要がある。最近では、大学でも創業支援のカリキュラムを持っている大学もある。

例えば、創業支援セミナーでやっている内容を、授業の一環として出前形式で行うなど、そういった機会を設けられれば大学としてもありがたいのではないかと考える。東邦大学ではキャリア教育のような授業があるが、創業に関するカリキュラムが無いので、大学のニーズと習志野市のやりたいことがマッチすれば、授業の一環として取り入れることもできるのでないかと考える。

【事務局／大竹課長】

個別に大学へ伺ってという想定かと思うが、予算の関係上、1か所に会場を設けて集合してもらう形で実施している。

大学との協議になると思うが、例えば市内3大学に授業の一環として取り入れてもらえるのであれば、各大学に出向かずとも、会場で実施しているセミナー等に参加すれば、単位が付与されるといった形での実施も考えられると思う。

今後、どのような形態で実施できるか、大学側と協議・相談していきたい。

【櫻井委員】

先程のお話の中で、市民農園の需要が今後増えていくということであったが、子育て・現役世代の30、40代が市民農園を利用するのは、難しい人が多いと思う。高齢者や子育てを終えた50、60代の利用者が多いと思うので、市民農園に力を入れていくのも1つの手法ではあるが、それよりも実際に野菜に触れるようなイベントの実施回数を増やした方がよいのではないかと考える。

現状その類のイベントは、農業祭の1回のみだが、今後イベントの実施回数を増やしていく考え

はあるのか。

【事務局／大竹課長】

素案のたたき台には、イベントの実施回数を増やすということは盛り込んでいない。

現状では、農業祭だけでなく、千葉県産フェアにも習志野市産の農作物を出店しているところである。

習志野市産の農作物を知ってもらうために、今後はそういったイベントの機会を作っていくべきとも感じているので、改めて検討したい。

【高橋委員】

第4節の観光の振興について。

地域資源の掘り起こしに触れているが、習志野市の場合、すぐに思いつくような観光名所等が無いように思う。

地域資源の掘り起こしの具体的な内容は、どのようなものを考えているのか。

【事務局／大竹課長】

現段階でお答えするのが難しいところだが、一番は、今あるものをブラッシュアップしていくことだと思う。

現状、物があるだけで何も手入れがされていないように感じる。来ていただくためには、そのための環境を整えなければいけないと考えている。

現在、埋もれているものについては掘り起こしを考えているところだが、今ある資源の中でもブラッシュアップして、観光として訪れてもらうための整備をしていかなければいけないと思う。

【山岸委員】

少し前の時期に、工場夜景ツアーを企画していたことがあったように思う。

習志野市でも、そういったコースを作って巡るような企画はできないか。

【事務局／大竹課長】

今現在、市内でコースを作成し、2 か月に 1 回程度募集をかけてまち歩きイベントを実施している方がいらっしゃる。

また、昨年度には、JR 新習志野駅と連携してコースを作成し、散策イベントを実施している状況である。

【山岸委員】

市内に ZOZOTOWN の倉庫があると思うが、例えば、企業の倉庫や工場といった施設を見学するようなツアーも成り立つのではないかなと思う。かなり広大な倉庫で、ロボットが動き回っている等の情報はマスコミや人づてに聞いたりはあるが、実際に見てみたい人もいると思う。

それがツアー化できるかどうかはわからないが、そういうようなものもあり得るのではないかな。

【金子委員】

山岸委員がおっしゃったような、工場見学等一つの体験プログラムを作るといったことを推進する組織を作らなければ上手くいかないと思う。

先程、習志野には観光資源が無いという話があったが、今の観光はそういう時代ではなく、文化や福祉など全てが観光の要素であり、そういったものをブラッシュアップすることによって、体験ができるプログラムがそこにあるかないかということで、人が集まったりする。

今後は、その辺りを統括して習志野をPRする組織を作らなければ、色々な発想が生まれても実現に至らないと考えている。

【伊藤（稔）委員】

千葉県の観光コンベンションビューローで、3年間観光に携わっていた。

先ほど話のあった観光資源の発掘というのは、20、30年も前から言われていて、君津の「濃溝の滝」のように、何気ないものがある日インスタグラムに投稿されて、一大観光地になった例もある。

また、工場の夜景見学ツアー等は、千葉県や会議後のアフターコンベンション等、色々なところで考えられている。

ただ、例えば千葉市でも、幕張メッセには、年間700万人（コロナ禍以前）の来場がある。そうした中で、千葉市の中心市街地と言われる千葉駅周辺に、どうやって足を運んでもらうかを商工会議所と考えた時期がある。ただ、中心市街地までの足が無いということで、京成バスと協力して千葉市内へのルートを作ったことがあるが、結局、千葉市の中心市街地には行かず、バスもすぐにやめてしまった経緯がある。

観光資源の発掘等、色々な方に来てもらう不断の努力はしなければいけないが、習志野だけで完結させようと思うと難しい部分があるので、千葉市等の近隣市と協力して周遊できるようなものを提案すると良いのではないかなと思う。

また、今は体験型の観光もあるので、この場で推奨できるものがすぐに思い浮かばないが、今後、皆さんの中で考えていくしかないのかなと思う。

【事務局／大竹課長】

まず、山岸委員からのご意見について、新たに工場見学といった部分を考えていかなければならないかなと考えている。

また、金子委員からのご意見について、団体を作っていく、連携・ネットワークを作っていくという部分で、必要なものと考えているところではあるが、伊藤（稔）委員からもあったように、千葉市等、近隣市も含めてという形で、色々な部分を模索して考えて参りたい。

【竹谷会長】

他に、ご意見・ご質問が無いようなのでここまでとする。

それでは、前回、今回とお示した素案のたたき台の内容で、本日まであった意見を踏まえて素案として進めてよろしいか。

《 異議なし 》

それでは、素案として進めていただくということで、お願いします。
事務局から連絡等はあるか。

【事務局／大竹課長】

本審議会の次回開催について、ご連絡させていただく。次回は3月を予定している。
内容については、次期産業振興計画の素案を取りまとめ、次期産業振興計画としてお示しする
中で、審議会への市長からの諮問を予定している。

【竹谷会長】

それでは、これをもって協議を終了とさせていただく。
なお、会議終了後であっても意見や質問をお受けすることなので、皆様におかれましては、
積極的にお出しいただければと思う。
事務局は、委員の皆様からの意見や評価を十分に活用し、次期の計画策定作業を進めてほしい。

(5)その他について

【竹谷会長】

それでは最後に、「その他」として、事務局から連絡等をお願いします。

【事務局／大竹課長】

特にございません。

【竹谷会長】

本日の日程は以上となる。他に何かご意見、ご質問等はあるか。
無いようなのでこれをもって、令和6年度第3回習志野市産業振興審議会の会議を閉会する。

会議録署名人

会議録署名人
